

【声明】

いのちと暮らしを守る医療・介護事業体として友の会とともに 日本の大軍拡に断固反対します

2022年12月22日

社会医療法人 同仁会 理事長 田端志郎
健康友の会みみはら 会長 江戸道子

12月16日に、岸田内閣は「安全保障3文書（国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画）」の改定を閣議決定しました。日本の安全保障政策の大転換そして大軍拡が、国会審議なく、選挙で国民の信を問うことなく、十分な説明もないなかで行われたことに、大きな憤りを感じます。

安全保障3文書では、敵基地攻撃能力を持つこと、そのために敵の射程圏外から発射できる長射程ミサイルを多数保有すること、軍事費（防衛費）をGDP比2%に増額（倍化）すること、そのために歳出を削り、税金を上げ、国債（国による借金）を利用することなどが盛り込まれました。また、公立医療機関の積立金やコロナ対策費も軍事費増額に回される予定です。先制攻撃が可能になる今回の改定は、「戦争をしない」と決めた憲法9条を否定するものです。

医療費自己負担が払えないために、病気になっても医療機関に受診できない方がたくさんいます。その方々お一人お一人の苦悩を、無料低額診療を提供している私たちは十分に知っています。税金や国債が簡単に軍事費に回されることを決して許せません。「歳出削減」で何が削られてゆくのでしょうか。政府は長年にわたって社会保障費を削減し続けてきました。これからの大軍拡の資金に、国民のいのちと暮らしを支えるお金がつき込まれてゆくことは明らかです。

戦争は一旦起こしてしまうと終息させるのが難しいことは、イラク戦争やアフガニスタン戦争の歴史が証明しています。今なお続いているロシアによるウクライナ侵略では、一般市民の生活も戦争に巻き込まれ、極寒の冬を迎えていのちの危険にさらされていると言われていています。本当に胸が痛みます。戦争は決して起こしてはいけません。いのちと暮らしを守る私たち医療・介護従事者は、なおさらその思いを強く持っています。軍拡はさらなる軍拡を呼び、決して終わることがありません。戦争を起こさないための外交や国同士の対話の枠組み作りこそ、平和憲法を持つ日本が貢献できる道のはずです。

現在コロナ第8波に立ち向かっている私たち医療・介護従事者は、コロナパンデミックの始まりから3年を経た今でも、人手不足のなかでコロナ診療を行い、クラスターの発生に昼夜の休みなく働き続けていますが、余裕を持った人員確保や経営は相変わらず得られないままです。超高齢社会に進んでゆくなかでも、医療・介護従事者を増やす政策は取られず、診療報酬・介護報酬も増やされていません。物価の高騰や年金の削減、医療費窓口負担の引上げなど暮らしも圧迫をされています。そのようななかでの今回の大軍拡は、ギリギリの状態でも奮闘している私たち医療・介護者の心を、そして地域の人たちのいのち・暮らしを踏みにじるものです。

10年後、20年後に振り返った時、「日本の針路について、あの頃が最も重要な時期だった」と言うであろう瞬間に、私たちは今生きています。日本の大軍拡に断固反対し、同様に反対する日本中の全ての人々と連帯し、撤回を求めてたたかってゆきます。

以上